

平成30年度第7回技術室主催 東京大学医科学研究所テクニカルセミナー

日時：2018年12月5日(木) 15:30～17:00

場所：2号館2階大講義室

セミナー演者：ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

MDテクニカルサポート 長谷 麻樹子

セミナー内容

1. High Resolution Melting (HRM)法のご紹介:15:30-16:00

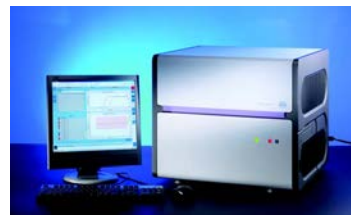
●HRM法はqPCRシステムを用い、PCRアンプリコンの融点が配列に依存して異なることを利用して遺伝子配列の違いを検出する解析法です。サンガーシーケンス法や次世代シーケンシング法は変異検出のゴールドスタンダードですが、PCR増幅が必要、ランニングコストが高い、解析が煩雑であるなど様々な制約もあります。一方、HRM法はqPCRシステムさえあれば実施可能で、コストの高い加水分解プローブを使用する必要もなく、標的とする領域の様々な変異の存在を高感度に検出することができます。条件次第では数%という低頻度の変異を検出できる感度を実現することも可能です。このような特徴のため、HRM法は臨床における応用に加え、変異スクリーニング、SNPタイピング、メチル化解析、微生物の分離など様々な分野で活用されています。HRM解析の導入を検討される皆様の一助となるために、本セミナー前半では、HRM解析の手順を説明するとともに、HRMを活用した報告をご紹介します。

2. MIQEガイドラインの紹介:16:00-16:40

●qPCRを用いた実験データは膨大に報告されていますが、中には不適切な実験デザインに基づく実験データが報告されたり、不適切な解析により誤った結論に導かれるケースもあります。多くの報告において詳細な実験情報が提示されないの、査読者や編集者がその実験データを正しく評価することが困難な状況にあります。このような背景から、qPCRの実験データの品質を保証し、正しい解釈を可能にするためのガイドライン、Minimum Information for Publication of Quantitative Real-Time PCR Experiments (MIQE) ガイドラインというもの提案されています。このガイドラインでは、実験データの適切な解釈と再現性確保のために報告されるべき最低限の情報が示されています。本セミナー後半では、MIQEガイドラインのご紹介を通じて、サンプルの扱い、抽出した核酸の品質、逆転写、PCR、そして解析の各工程における注意点をまとめます。

3. 質疑応答:16:40-17:00

●実際にqPCRを使用されている方、あるいはこれからqPCRを始めるにあたり疑問をお持ちの方を対象に、質疑応答の時間を設定いたします。



事前のお申込みは不要ですので、直接会場にお越しください。



ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社



日本ジェネティクス株式会社
NIPPON Genetics Co., Ltd.

お問合せ：日本ジェネティクス株式会社
03-3813-0961 担当 田中